

令和7年度 第3回 初生小学校運営協議会

日 時：令和7年11月6日（木）午後2時～午後3時30分

場 所：初生小学校 2階 調べ学習室

次 第

進行：岩佐 好純

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 校長挨拶
- 4 オブザーバー挨拶（三方原協働センター）
- 5 教育総務課より
- 6 日程確認
- 7 議長選出
- 8 前回会議録確認
- 9 熟議 進行：議長 辻村委員
(1) 令和8年度学校経営方針の方向性について（校長より） 【30分】
 - ・ねらい・・・来年度の経営方針を受け、学校運営協議会としての意見をまとめる。
 - ・ゴール・・・本年度までの学校の様子、支援の実態を踏まえ、具体的な助言等をし、学校運営協議会としての意見をまとめる。
(2) 地域としてできる支援について 【30分】
 - ・ねらい・・・R8 経営方針を受け、地域としてできる支援について考える。
 - ・ゴール・・・経営方針に沿った具体的な支援の在り方について提案する。
- 10 報告（コーディネーターより） 【5分】
- 11 その他・連絡事項
(1) 第2期学校運営協議会委員選出について
(2) 自己評価について
(3) 次回開催日時及び議長選出
- 12 閉会

令和7年度 第2回 初生小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年9月22日（月）14時00分から15時35分まで
- 2 開催場所 初生小学校 調べ学習室
- 3 出席委員 上乘 菜穂子、猿田 金昭、山本 福次郎、関 美奈子、柴田 宏祐
山崎 晋司、辻村 拓磨、猪野 久美子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 夏目 聖（三方原協働センター主幹）
- 6 学 校 井口 幸英（校長）、磯部 志保（教頭）、岩佐 好純（主幹）、
田中 由紀子（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 教育委員会 加藤 大輔（教育総務課）
- 9 会議録作成者 CSディレクター 田中 由紀子
- 10 前回議事録確認
- 11 議長の選出

前回の協議会において、議長の選出について委員に意見を求めたところ、上乘会長から山崎委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

12 協議事項

- (1) 授業参観を受けて
- (2) 学校関係者評価、いじめアンケートを受けて

13 会議記録

司会の岩佐から、委員総数8人のうち8人全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立する旨の報告があった。

(1) 授業参観を受けて

議長の指示により、委員からは以下の発言があった。

- ・ 父親の参加が多く驚いた。（上乘会長）
- ・ 5年生は予定を予定帳に書いていないようだが、漢字の勉強のために書かせた方が良いのではないか。（関委員）
→ 予定帳を書く時間の確保が難しい。3年生以上はタブレットへ配信している。（岩佐主幹）
- ・ 5年生の教室廊下の掲示が良かった。（山本委員）
- ・ 1年生は教室が暑いのか5時間目だからか、グダッとしている子が何人かいた。高学年はタブレットを上手に使っていた。（柴田委員）
- ・ 6年生の修学旅行説明会を聞いたが、児童のプレゼンが良かった。積極性があり、自信を持って行動していると感じた。（猪野委員）

(2) 学校関係者評価、いじめアンケートを受けて

議長の指示により、主幹から資料に基づき説明があり、委員からは以下の発言があった。

【学校関係者評価】

- ・ 6「人の話をしっかりと聴いていますか」の項目は、児童に比べて職員の評価が低い。人の話を聴くときは、手を止めて話をしている人の顔を見ることが大事だと思う。(上乘会長)
- ・ 挨拶に関して、低学年の児童が、横断歩道を渡り終わると止まってくれた車に向かって一礼していた。素晴らしい光景だった。(上乘会長)
- ・ 11「自分を大切にしていますか」、12「周りの人を大切にしていますか」の項目は、“できている”とほとんどの児童が回答しているが、逆に“できていない”と回答している児童が気になる。その児童への対応を考えていただけたらと思う。(辻村委員)

【いじめアンケート】

- ・ いじめに関し問題があった場合、事案対応等を全教員へ共有しているのか。全教員は知っておくべきだと思う。同じ意識を持ってほしい。(上乘会長)
- ・ SNSでの誹謗中傷が無くて良かった。(山崎委員)
- ・ SNSの使い方についての指導はしているのか。(山崎委員)
- 4～6年生対象に情報モラル教室を開催している。(岩佐主幹)
- ・ 悩みや不安のある保護者が多いので、PTAが主体となって講演会や座談会などの開催を考えている。(辻村委員)

14 その他連絡事項等

- ・ 司会から、次回会議は、令和7年11月6日(木)午後2時00分から調べ学習室で開催することが確認された。
- ・ 司会から、次回の議長の選出について委員に意見を求めたところ、上乘会長から辻村委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

学校運営協議会自己評価実施要項

浜松市教育委員会

1 趣旨

この要項は、浜松市学校運営協議会規則（令和元年 浜松市教育委員会規則第2号）第8条に規定する学校運営協議会（以下「協議会」という。）の自己評価の実施について必要な事項を定める。

2 評価の目的

各協議会が、自らの取組について、その取組内容や達成状況等について自己評価し、改善につなげることにより、保護者、地域住民等の対象学校の運営への参加を促進し、当該運営の改善及び児童生徒の教育活動の充実を図る。

3 評価の実施

協議会は、以下の評価項目について自ら評価を行う。

<評価項目>

（必須） ※全ての協議会で行う。

- 1 学校運営の基本方針について熟議することができたか。
- 2 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。
- 3 協議会の結果について、十分な情報発信を行ったか。
- 4 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

（参考） ※各協議会で追加する項目があれば設定する。

4 自己評価の結果の報告書の作成

協議会は、自己評価結果を様式1により、簡潔にとりまとめる。

5 評価結果の公表

協議会は、自己評価の結果について、CS便りや学校のホームページ等を活用し、広く保護者や地域住民等に公表するよう努める。

6 評価結果の報告と改善支援

(1) 教育委員会への報告

協議会は、様式1を当該年度末の指定する日までに教育委員会へ提出する。

(2) 教育委員会による改善支援

ア 様式1の活用

様式1は教育委員会教育総務課が集約し、各協議会の運営状況について把握するための資料とする。

イ 評価結果等に基づく改善支援

教育委員会は、評価結果等に基づき、各協議会の取組の改善が図られるよう、必要な助言又は指導を行う。

附 則

この実施要項は、令和2年9月1日から施行する。

この実施要項は、令和5年4月1日から施行する。

記入・提出用

提出期限 令和8年1月26日(月)

初生小FAX番号 437-0719

(様式2)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

委員名 (

)

＜本年度の目標＞

初生小応援団の継続・拡充、一部地域ボランティアの募集

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

＜評価項目4＞ 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

(様式2)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

委員名 ()

<本年度の目標>

- ※ 前年度に協議会で協議した目標を記載する。
- ※ 目標が、会議体として相応しい目標となっているか、また、学校運営の基本方針に関わることを中心に据えられているか等を確認する。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

- ※ 参考資料【熟議チェックシート】の評価項目1をもとに、振り返る。
- ※ 委員個人の評価ではなく、協議会としての視点で評価する。
- ※ 学校運営の基本方針（自校の学校教育目標や「育てたい力」等）について、協議した内容を簡潔に評価する。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

- ※ 参考資料【熟議チェックシート】の評価項目2をもとに、振り返る。
- ※ 委員個人の評価ではなく、協議会としての視点で評価する。
- ※ 成果・課題などを簡潔に記載する。方法論だけではなく、「育てたい力」や「目指す子供の姿」とのつながりをポイントにする。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

- ※ 協議会での協議結果（会議録への記載内容等）について、どんな方法による情報発信を行ったか、それによってどのような効果があったのか等を振り返って記載する。
- ※ 委員個人の評価ではなく、協議会としての視点で評価する。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ※ 委員個人の目標ではなく、協議会の目標を記載する。
- ※ 学校運営協議会は、会議体であるため、会議体として相応しい目標を設定する。委員が、個人としてボランティア活動に参加することは想定されるが、学校運営協議会がボランティア活動の主体となることは想定していない。
- ★ 自己評価の結果については、学校ホームページで公表する。

【 熟議チェックシート 】

氏名 ()

できている もう少し

評価項目 1			校長の説明を聞いて、分からない用語や疑問に感じたことを遠慮なく質問し、それに対して理解・納得できる回答が得られた。
			基本方針の承認にあたり、校長の説明を聞置くだけでなく、よりよい学校運営のために委員が建設的な意見を発言できた。
			委員が、学校教育目標や学校運営の基本方針についての内容を理解し、共有した。
			学校評価などの評価結果を生かした改善について確認した。
			学校運営について、委員が率直に意見を述べることができた。
評価項目 2			学校の教育目標と学校支援活動とのつながりを意識して、協議会で協議を重ねた。
			熟議の結果、学校、家庭、地域がそれぞれ実行すべきこと、役割分担が明確になった。
			これまで行われてきた学校支援活動についても、教育目標とのつながりや学校、家庭、地域の役割分担を考え、見直すことができた。
			協議会で決定し、実施した学校支援活動について、振り返りや反省を行った。

令和7年度初生小応援団実績表

R7.11.6

No.	月日	曜日	学年	教科等	支援の内容	依頼先	参加人数
1	5月7日	水			花壇・学級園草取り	応援団	9
2	5月9日	金	3年	社会	校区探検引率補助	応援団	4
3	5月16日	金	3年	社会	校区探検引率補助	応援団	5
4	5月下旬～ 7月中旬		1,2年 みどり	生活	あさがお、野菜の水やり支援（土日祝）	学年保護者	1年申込数 30名 依頼日数 16日 2年申込数 30名 依頼日数 16名
5	6月5日	木			花壇整備	応援団	1
6	6月6日	金	3年	総合	農業体験（田植え等）引率支援・補助	応援団	7
7	6月9日	月			花壇定植	応援団	5
8	6月18日	水	2年	総合	校区探検 中止	応援団	6
9	7月17日	木	5年		30分回泳見守り補助	応援団	5
10	夏休み期間		みどり		さつまいも・花壇水やり支援 （土日祝・学校閉庁日）	みどり 応援団	申込数 24名 依頼日数 20日
11	9月～ 10月下旬		1年 みどり	生活	あさがお、さつまいも水やり支援（土日祝）	1年保護者	申込数 27名 依頼日数 19日
12	9月～ 11月下旬		5年	家庭科	ミシン補助	5年保護者 応援団	12名 4名
13	10月2,3日	木金	全校	スポーツ	新体力テスト支援	応援団	8
14	10月15日	水	3年	総合	農業体験（稲刈り等）引率補助	応援団	6
15	10,11月		3年	社会科	校外学習引率支援	応援団	8
16	9月		5年	図画工作	糸のこ補助 取り止め		
17	10月		みどり	家庭科	ミシン補助 取り止め		
18	10,11月		6年	家庭科	ミシン補助	6年保護者	11
19	10月		5年	図画工作	版画刷り補助 取り止め		
20	10月24日	金			学校花壇植え替え	応援団	4
21	11月27日	木	2年	生活	校区探検	2年保護者	15
22	11,12月		4年	図画工作	のこぎり補助	4年保護者 応援団	15名 2名
23	11月		4年	総合	校外学習引率支援 今年度以降なし		
24	11,12月		5年	家庭科	調理実習補助	5年保護者	9
25	12月		みどり	家庭科	調理実習補助 取り止め		
26	12月		3年	書写	書き初め補助	応援団	6
27	12月		4年	算数	そろばん補助	4年保護者	
28	3月		3年	算数	そろばん補助	3年保護者	

※令和7年度初生小応援団登録者数 32名

第3回学校運営協議会資料

令和8年度学校経営構想【案】

1 国の動向

将来の予測が困難なVUCA(「Volatility(変動性)」「Uncertainty(不確実性)」「Complexity(複雑性)」「Ambiguity(曖昧性)」)と言われる時代の中で、社会の変化に主体的にかかわり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていけるのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮するとともに他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生(Well-being)の創り手となる力を、子供一人一人に身に付けられるようにすることが重要である。

2 市の方針(第4次浜松市教育総合計画)

(1) 基本理念及び3つのコンセプト

『描く夢や未来の実現』⇒「主体性」「多様性・包摂性」「信頼・協働」

(2) 目指す子供の姿

- ア 自分らしさを大切にする子供
- イ 他者と協働し、主体的に行動できる子供
- ウ 自己調整しながら、粘り強く取り組む子供

(3) 目指す教職員の姿

- ア 子供の自分らしさを受け止める教職員
- イ 愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員
- ウ 専門性と指導力を磨き続ける教職員

<浜松市校長会議>

～ 中野市長の講話より ～

▶市内における人口減少が大きな課題
⇒学校教育を通して子供たちに「郷土愛」を育んでほしい。

3 子供の実態

- 自分の気持ちに素直な子が多い。
- イベントや行事に積極的に取り組む子が多い。
- ほめられるとやる気になる子が多い。
- 自分に自信がなく主体性や粘り強くやり遂げようとする態度にやや欠ける。
- 感情、行動のコントロールが苦手。
- 相手の気持ちを推し量るのが苦手。
- 発達障害をもつ子供や家庭環境に恵まれず愛着障害を抱える子供の増加がみられる。

4 令和7年度学校教育目標

学校という社会の中で、あらゆる教育活動を受け身で対応するのではなく、子供一人一人が物事に主体的に向き合い、他者と協働的にかかわり合いながら、粘り強く挑戦し続けることを通して、自分(自分たち)の良さや可能性をより一層輝かせながら、子供自ら魅力ある楽しい学校生活を創り上げていこうとする力を育てていく。

また、学校教育目標は、教育活動に携わるすべての者(子供・教員・保護者・地域の方等)

が、その意味や価値を具体的にイメージすることができるものでなくてはならない。すべての者の中が共通の目標に向かって日々の教育活動を推進していくことで、教育的効果は更に高まるものとする。これらのことを踏まえ、令和8年度の学校教育目標を、

なりたい自分を共に目指して さあ、やってみよう！

とする。

(1) 設定理由

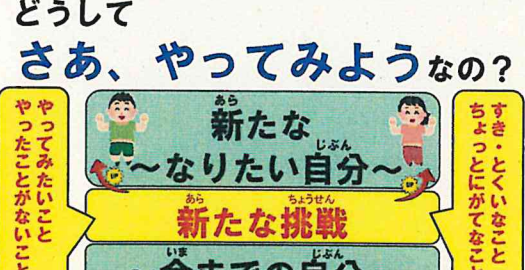
ア どうして「なりたい自分」なのか？

どうしてなりたい自分^{じぶん}なの？ 	それは、その時々『なりたい自分』といった小さな目標の積み重ねが、みんながいつか叶えたいと思う『夢』といった大きな目標に繋がるから。
--	--

イ どうして「共に目指して」なのか？

どうして共に^{とも}目指して^{めざ}なの？ 	それは、いろいろな「ひと・もの・こと」との関わりを通して、自分一人ではなかなか気づくことができない考え方や知識、知恵などを身に付けることができるから。
---	--

ウ どうして「さあ、やってみよう！」なのか？

どうしてさあ、やってみよう^{さあ、やってみよう}なの？ 	それは、今までの自分から新たななりたい自分になるためには、自分がやってみたいこと、今までやったことがないことなど、新たなことに挑戦することが必要だから。
---	---

(2) 補足

なりたい自分には？

なりたい自分^{じぶん}には？ なりたい自分 ～自分の目標～ なりたい自分たち ～みんなの目標～	『なりたい自分』には、「なりたい自分【主体性】」といった自分の目標と、「なりたい自分たち【協働性】」といったみんなの目標の2つがある。
--	--

(3) 具体的な子供の姿

ア 「なりたい自分」とは？

【主体性】	【協働性】
ここでの「なりたい自分」は、〇〇ができるようになりたい、〇〇のような人になりたいといった自分の目標をもつこと。	ここでの「なりたい自分たち」は、〇〇のような学年・学級にしたい、〇〇のような学校にしたいといったみんなの目標をもつこと。

イ 「共に目指して」とは？

【主体性】	【協働性】
「なりたい自分」に近づくために、自分の考えをもち、対話を通して伝え合うということ。そして、伝え合う時には、「耳」と「目」と「心」を働かせながら人の話を聴くこと。 また、自ら進んであらゆる「ひと」「もの」「こと」にかかわりながら、自分に必要な知識や技能、能力、態度等を身に付けていこうとすること。	「なりたい自分たち」に近づくために、思いやりとルールを守るといった規律の視点から、みんなが安心して楽しく学校生活を送るために大切にしたいことを、みんなで意見を出し合いながら決めていくということ。 また、多様な他者の考えや立場を理解したり受け入れたりするとともに、対話を通して合意形成を図ったり、役割を分担し協力して実践したりしようとする。

ウ 「さあ、やってみよう！」とは？

【主体性】	【協働性】
さあ、やってみよう！ ちょう せん 挑戦 すぐに あきらめない かい けつ 解決 って？ じぶん もくひょう 自分の目標を かんが おし 考 教 え合 える える あう たっせい 達成するために 自分の目標を達成するために、新たなことに挑戦するということ。たとえば、うまくいかないことがあったとしても、すぐに諦めるのではなく、解決方法を自分で考えたり、友達や先生と教え合ったりしながら粘り強くやり遂げようとする。	さあ、やってみよう！ そう そう 創造 ふりかえり 振り返り こう どう 行動 って？ みんなの目標を もくひょう みんな たっせい 達成するために みんなのために 自分たちの目標を達成するために、創造力を働かせながらみんなのためになる楽しい活動を考え、行動に移すということ。たとえば、うまくいかないことがあったとしても、振り返りを通して、更によりよい活動となるよう創り上げていくこと。

5 令和8年度重点目標及び重点施策（手立て）

重点目標及び重点施策（手立て）は、【主体性】と【協働性】の視点から設定していく。

	【知】	【徳】	【体】
主体性			
協働性			

※教育課程編成会議を通して、学校教育目標に繋がる具体的な内容を決定していく。

6 学校経営目標（学校教育目標を達成するための土壌となる学校風土）

一人一人に寄り添い、一人一人を輝かせる、愛情あふれる学校
～ 心理的安全性の向上・リアクティブからプロアクティブへの転換 ～

（1）心理的安全性の向上

「心理的安全性」とは、組織の中で自分の考えや気持ちを誰に対しても安心して発言できる状態のことを言い、「生産性が高いチームは心理的安全性が高い」とされており、心理的安全性を高めることで個人や組織の効果的な学習や革新につながることが期待される。

学校全体で心理的安全性の向上を図ることを通して、子供や保護者が、すべての教職員

(管理職も含む) に対して心の内を相談できる関係性や、職場内において教職員同士が情報を密に共有することができる関係性を築き上げることで、例え様々な課題が生じたとしても、組織的な対応を通してよりよい解決策を講じていくことができるようにする。

(2) 「リアクティブ」から「プロアクティブ」への転換

ア 生徒指導には

●特定の子供を対象とする事後対応型の即応的・継続的生徒指導 (リアクティブ)

⇒課題早期発見対応・困難課題対応的生徒指導

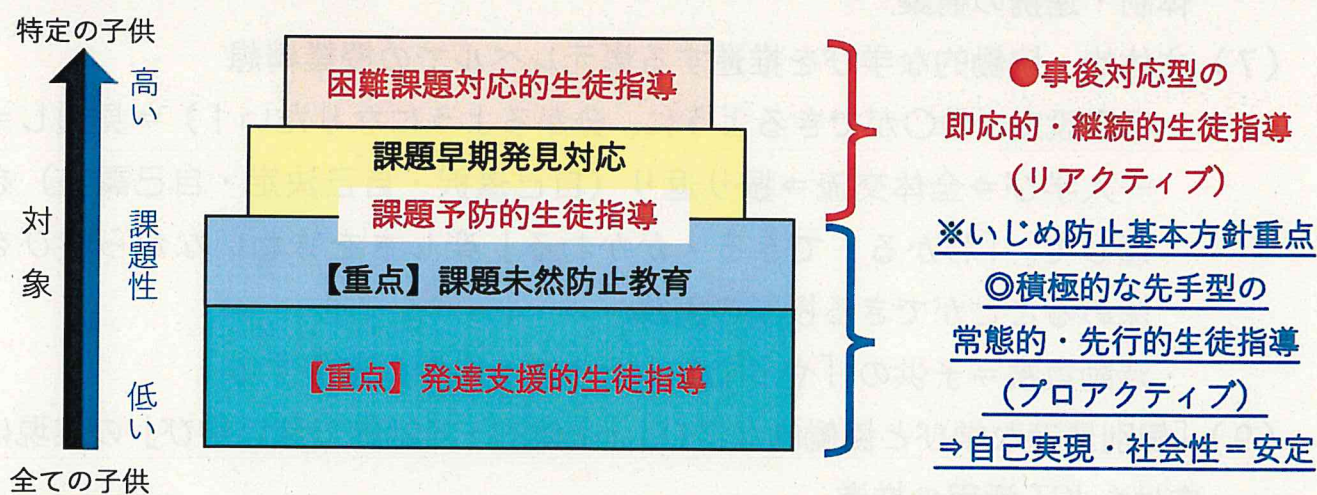
◎全ての子供を対象とする積極的な先手型の常態的・先行的生徒指導 (プロアクティブ)

⇒発達支援的生徒指導・課題未然防止教育

がある。令和7年度は、いじめ防止基本方針の重点として、プロアクティブ「発達支援的生徒指導・課題未然防止教育」に重点を置き、学校全体で温かく丁寧な生徒指導の積み上げを図っていく。

プロアクティブには、子供の個性の発見と良さや可能性の伸長と社会的資質・能力等の発達を支える教職員の働き掛けが重要である。よって、日々の教職員の子供への挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話等、日々の授業や行事等を通した個と集団への働き掛けや、傾聴・受容・共感に基づく深い子供理解に努めていくことを大切にしたい。

【常態的・先行的生徒指導 (プロアクティブ) と即応的・継続的生徒指導 (リアクティブ)】



イ プロアクティブを重視することで

子 供	教職員
あくまでも子供が自発的・主体的に自らを発達させていく。	子供の個性の発見と良さや可能性の伸長と社会的資質・能力等の発達を支える。
✓ 個性の発見と良さや可能性の伸長	✓ 発達支援教育⇒確かな子供理解・個別支援
✓ 社会的資質・コミュニケーション能力の発達	✓ 特別活動⇒自治的能力を高める教育活動
◎自己肯定感の向上 ◎より良い人間関係	◎子供との信頼関係の構築 ◎学校の安定

7 令和8年度の強化・改善

(1) 学年体制等を重視した学年経営の推進

- ・学級担任から学年担任へ
- ・教科担任制の導入（可能な範囲で）

(2) 学級づくり・信頼関係づくりに関する校内研修の導入

- ・1学期：「学級づくり・信頼関係づくり・コーチングスキルアップ」
- ・夏季休業中以降：「教科研修」

(3) 子供が主体的・協働的に創り上げる楽しい学級・学年・学校づくりの推進

- ・学年（学級）イベントの奨励
- ・委員会の特長を活かしたイベントの奨励
- ・運動会等の学校行事の充実

(4) 体力向上と粘り強さを養う体育的活動の実践

(5) 誰もが安心して学校生活を送ることができる生徒指導体制の充実

- ・リアクティブからプロアクティブへの転換
- ・心理的安全性の向上

(6) 子供の生きづらさを解消するための発達支援・就学支援における組織的な体制・連携の構築

(7) 主体的・協働的な学びを推進する単元レベルでの授業構想

- ・目標設定（〇〇ができるように、分かるようになりたい！）⇒見通し⇒一人学び⇒全体交流⇒振り返り（自己選択・自己決定・自己調整）を通して、「わかる・できる・かかわる」楽しさを味わいながら学びを深めることができる授業の実践
- ・活動重視⇒子供の「やってみよう！」を十分に確保する

(9) 「個別最適な学びと協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたICT活用の推進

(10) 地域資源（人的資源・物的資源）を最大限に生かした体験活動・探究的な学びの推進 【※】

(11) 子供の実態や健康面等に配慮した日課の設定

- ・フラット日課（同じリズムで生活を送る）の設定
- ・サマータイム日課（特別日課5時間）の導入

<その他>

- ・PTA活動からのお願い 【※】